

特集

建築で飯を食う 2012年、建築家の職能を考える



1=ヨコハマホテルヴィレッジのフロントでのパーティ(提供:岡部友彦) 2=403architecture[dajiba]「海老塚の段差」(写真:kentahasegawa) 3=「柳橋歌舞伎」(提供:宗像和則) 4=岡村泰之「北島山プロジェクト」外観(写真:岩谷みちほ)



個人個人が、いまの現実社会にマッチするように思考行動し、身の回りから変革していくことが求められている。そうしたことを議論しまとめ上げていく市民組織をオーガナイズしていくのが、建築家の役割ではないか(岡村泰之「岡村泰之建築設計事務所」)。風土に培われた蓄積を、便利さや経済優先でだけ判断し消し去っていく建築・街づくりに、私はもう加担しません(宗像和則「宗像和則建築設計事務所」)。

- 岡村泰之 | なぜ、私は建売住宅を設計するのか? ●泉本晋一+駒井秀紀 | 街こわしから生まれた「スキマ」を街づくりにつなげる ●岡部友彦 | ドヤ街・横浜寿町に生活環境をデザインする ●彌田徹+辻琢磨+橋本健史 | 新築・改築・解体を通して都市の枠組みから設計する ●宗像和則 | 「柳橋歌舞伎」の伝承をきっかけにコミュニティ・アーキテクトを实践

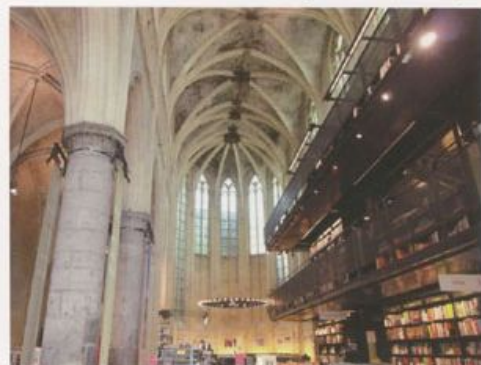
〈新連載〉
建築保存の
ポリエードル
ヨーロッパに学ぶ
リノベーションの技法
— 笠原一人



〈新連載〉
まちの胃袋
— 宮崎県延岡市
— 山崎亮

〈新連載〉
透けた明るさ
名作住宅の構造デザイン
— 小野暁彦

東日本大震災— 行動する建築家⑦
商店主の生活再建
を支える南三陸町
仮設商店街計画
— 山下香





TAC 設計室

設計をするということ

今から33年前、大学を卒業して就職の面接で「独立が目的です」と事務所の所長に宣言をした。それでもなんとか採用してもらえた。今から思えばなんと生意気なことを言ったものだろう。私は意気込みだけで、世間の常識も、設計者としての知識もないままに社会人となってしまった。知らないということは強いわけで、先輩に立面図を書けといわれ「どうやってかくの？」と尋ねたくらいだった。ただ、建物を計画すること、考えることが大好きな、空想好きの若者だった。所長に対し生意気にも経営や仕事の段取りに口を出してはどなられ、それでも懲りずに話しかける。今のように手取り足取りではなく、勉強がしたければ俺の背中を見ろというような、そんな時代だった。

自分では3年で、独立する意気込みであったが、気がついたときには5年がたっていた。独立したものの、仕事がない。よく所長に声を掛けられ下請け仕事をもらいうち、少しずつ自分の設計の仕事が来るようになり、貧乏だったけれど、好きな設計の仕事が出来ることがうれしくて毎日が楽しくて仕方がなかった。お客様に仕事をもらい、建物の使い方やデザインを自分の頭の中で思い巡らせている時間が楽しくてたまらない。不動産の証券化事業とか、事業計画書を持って難しい顔をして金融機関をめぐっているとときよりもずっと楽しかった。いつしか動物病院のコンサルティングを行うようになってお客様の人生の節目にかかわるようになり。建築設計、不動産、税務の知識、金融、雇用の問題から人生の最終目的にまで話が及ぶことが多くなってきた。選択肢を選ぶのはクライアントだが、そのスタートをお手伝いするのも私の仕事のひとつになってきた。私は建物の設計ばかりではなく、これもお客様の人生の選択に適した選択肢をプレゼンするのも一つのデザインであり設計をするということではないかと思うようになってきた。(渡邊 毅)